

骨塩定量検査

骨塩定量検査

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量 (mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	備考	異常を示す主な疾患
974	骨塩定量検査 9Z513-0000-991-295	X線フィルム	専用 フィルム	常温	3~4	140	DIP法	下表参照	【低下】骨粗鬆症・骨代謝性疾患
1000	骨塩定量検査 (フィルムレス)	電子媒体	専用袋	常温	3~4		DIP法	下表参照	

※骨塩定量検査は、骨粗鬆症の診断及びその経過観察の際のみ算定できる。ただし、4月に1回を限度とする。骨塩定量検査を行うことを目的として撮影したフィルムを用いて画像診断を併施する場合は、所定点数又は画像診断の手技料(写真診断及び撮影)の所定点数のいずれか一方により算定する。ただし、フィルムの費用は、いずれの場合でも、手技料とは別に算定できる。

撮影・現像方法

①アルミステップ

右図のようにアルミステップをカセットに対して直角に置き、ステップの低い方が手前になるようにセットしてください。
(※アルミスローブは厚い方が手前)

②カセット

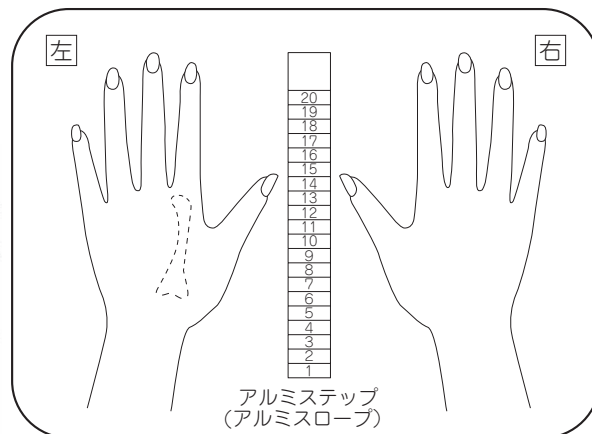
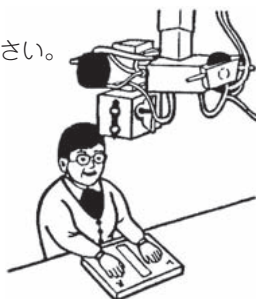
グリッド(リスカセット)は使用しないでください。
氏名、撮影日、手の左右識別に「右、左」又は「R、L」等の表示を入れ、試し撮りで決定した条件に設定してください。

③手の位置

手のひらをカセットに可能な限り密着させ、指を軽く開いた状態で撮影してください。

④現像

フィルムに、ムラ・キズのないように現像してください。



- m-BMD (骨塩量) 中手骨骨塩量のアルミ厚さ換算値(mmAl)
- MCI 骨皮質幅指数(骨幅に対する皮質部の割合)
- YAM% 性別の若年成人平均値に対する実測値の百分率(%)
- Age% 性と年齢を一致させた基準値に対する実測値の百分率(%)
- GS max デンシトメリーパターンの橈側、尺側の各最大値の平均(mmAl)
- GS min デンシトメリーパターンの中央部最小値(mmAl)
- d 骨髄質幅(mm)
- D 骨幅(mm)
- L 第二中手骨の長さ(mm)

基準値

年齢	女性	
	YAM値 例数	2.864 平均値
20~24	2,252	2.788±0.240
25~29	3,192	2.854±0.242
30~34	5,653	2.877±0.241
35~39	7,032	2.880±0.247
40~44	7,263	2.867±0.250
45~49	9,163	2.835±0.258
50~54	8,382	2.705±0.289
55~59	8,190	2.502±0.294
60~64	7,337	2.375±0.288
65~69	5,854	2.272±0.286
70~74	2,688	2.172±0.289
75~79	952	2.073±0.310
80~84	223	1.975±0.279
85~	43	1.847±0.253
計	68,520	

年齢	男性	
	YAM値 例数	2.984 平均値
20~24	156	2.907±0.293
25~29	335	2.932±0.273
30~34	250	3.010±0.279
35~39	365	3.047±0.289
40~44	517	2.997±0.300
45~49	665	2.952±0.304
50~54	826	2.960±0.291
55~59	708	2.931±0.311
60~64	621	2.939±0.311
65~69	562	2.884±0.349
70~74	355	2.836±0.326
75~79	171	2.774±0.376
80~	59	2.796±0.362
計	5,590	

